

2018.11.14

【国際交流】ホーチミン医科薬科大学・タマサート大学学生が本学を訪れました

平成 30 年 10 月 23 日から 11 月 1 日までの 10 日間、アジアの学生を迎え、日本の最先端化学技術や研究を紹介する交流プログラムを実施しました。7 年目の交流となるベトナムホーチミン医科薬科大学に加え本年はタイタマサート大学の学生も受け入れての事業となりました。

「医療・福祉分野における最新 ICT・ロボット技術と人材育成」をテーマとしたこのプログラムでは、これから少子高齢社会に向かうベトナム、タイの学生が、VR(バーチャルリアリティ)や、福祉ロボットを体験したり、講義を受講したりした他、福祉施設、病院、研究所等の訪問を通して日本の現在の医療福祉について学びました。AI と介護者、被介護者のつながりと、ロボット技術を使いこなす人材育成の必要性などを知見することで、自国において近い将来直面するであろう課題をじっくり考える機会となったようです。講義や訪問地で学ぶ姿勢は大変積極的で本学学生にとってもおおいに刺激的であったことと思います。

ベトナム、タイ双方の学生が楽しみにしていた本学学生宅でのホームステイ、紅葉狩り、東京探索は、多くの本学ボランティア学生が汗を流して準備してくれました。芽生えた友情から、今度はベトナム、タイでの再会を約束した学生も居るようです。

将来、母国の保健医療政策に大きく関わるであろう優秀な招聘学生を迎えての学術的、文化的な相互交流プログラムを行えることは、本学にとって大変喜ばしいことです。

ご多忙中、尽力くださった全ての方々に深く感謝申し上げます。

* 本プログラムは、日本・アジア青少年交流事業(さくらサイエンスプラン)として採択され国立研究開発法人科学技術機構の支援により、「医療・福祉分野における最新 ICT・ロボット技術と人材育成―日越泰の医療・福祉協力にむけて―」、をテーマに遂行された事業です。



キャンパス前にて



介護者用ロボット体験



紅葉狩り